

関西医科大学 広報



CRUI訪問団来学時の集合写真

CRUI訪問団・イタリア万博 政府代表大使、来学

Vol.67

CONTENTS

トピックス：CRUI訪問団・イタリア万博政府代表大使来学、ヴェネツィア大学との協定締結

P.1

大学：大学院生涯健康科学研究科開設

P.5

トピックス：国外臨床実習成果報告会

P.1

病院：附属病院外国人患者受入れ医療機関認証制度認定

P.8

トピックス：3学部オープンキャンパス

P.2

病院：香里病院病院機能評価認定

P.12

CRUI訪問団・イタリア万博政府代表の訪問、ヴェネツィア・カフォスカリ大学との協定締結

9月6日(金)、イタリア国立大学学長会議Conference of Italian University Rectors (CRUI)の訪問団およびイタリア万博政府代表大使Mario Vattani氏らが本学を視察に訪れました。CRUIはイタリア国立大学の学長からなる組織で1963年に設立され、イタリアの大学と社会に関する様々な事業を行っています。Vattani氏らは本学がイタリアパビリオン展示で協力関係にあることから在大阪イタリア総領事Marco Prencipe氏とともに視察に同行されました。CRUIの主なメンバーは以下の通りです。

- ・ Prof. Giovanna Iannantuoni, Rector of the University of Milano Bicocca, CRUI President (ミラノビッコカ大学長、CRUI会長)
- ・ Prof. Francesco Priolo, Rector of the University of Catania, CRUI Vice-President, CRUI Delegate for Research (カタニア大学長、CRUI副会長兼研究担当代表)
- ・ Prof. Tiziana Lippiello, Rector of the University "Ca' Foscari" of Venice, CRUI Delegate for International Relations (ヴェネツィア・カフォスカリ大学長、CRUIの国際関係担当代表)
- ・ Prof. Alessandra Petrucci, Rector of the University of Florence, CRUI Delegate for Teaching and Learning (フィレンツェ大学長、CRUIの教育および学習担当代表)
- ・ Prof. Maria Luce Frezzotti (ミラノビッコカ大学研究科長)
- ・ Ms. Emanuela Stefani (CRUI事務長)

今回、イタリアと日本の連携促進のために来日し、成長が著しい本学の教育・研究・診療を視察することになりました。本学側は木梨達雄学長、国際化推進センター友田幸一センター長、附属病院松田公志病院長、大学院医学研究科教務部人見浩史部長、ジュセッペ・ペッツォッティ客員教授(現 医工学センター長)らが出席。本学

の紹介、CRUIおよびイタリア各大学、イタリアパビリオンの説明のあと、シミュレーションセンター、光免疫医学研究所、総合研究施設などの学内施設および附属病院外来、がんセンター・緩和ケアセンター・リハビリテーションセンターを見学後、関医タワーにて歓迎食事を催しました。

また、この訪問にあわせて、本学とヴェネツィア・カフォスカリ大学の学際的学術連携に関する包括協定の調印式を行いました。今年5月初旬に木梨学長、友田センター長、人見部長、Pezzotti客員教授らはヴェネツィア・カフォスカリ大学を視察し、理工系学部およびSan Camillo病院との連携について協議を続けた結果、締結に至りました。ヴェネツィア・カフォスカリ大学はトリノ工科大学について2件目のイタリア協定校となります。

今回の訪問をきっかけに、ヴェネツィア・カフォスカリ大学およびイタリアの著名な大学との連携とイタリアパビリオン展示に向けた協力が進むと期待されます。



ヴェネツィア・カフォスカリ大学との包括協定調印



訪問団および本学出席者の集合写真

国外臨床実習成果報告会

7月4日(木) 17時15分から、枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、国外臨床実習成果報告会が開催され、165名が参加しました。木梨達雄学長による開会挨拶の後、国際化推進センター友田幸一センター長が「舞台は世界に」と題し、これまでの本学卒業生の海外での活躍を紹介。続いて、ドイツ、リトアニア、スコットランド、マレーシア、アメリカ、カナダなど様々な国で臨床実習を体験した6学年生たちが、現地で体験した実習や学んだこと、体感した文化の違い、余暇の過ごし方などについて、英語で報告。「留学に参加したことで貴重な学びが得られた」「是非後輩の学生にも留学を勧めたい」などと語りました。

その後は医学部金子一成学部長による総評で、学生た

ちの成果が見える報告を褒め、英語教室ラウル・ブルーヘルマンズ教授による閉会挨拶が述べられ、報告会は幕を閉じました。



木梨学長の挨拶に耳を傾ける参加学生たち

令和6年度オープンキャンパス



下記の日程でオープンキャンパスを開催しました。

- 医学部 7/21 (日)・8/3 (土)
- 看護学部 4/21 (日)・7/2 (日)・8/4 (日)・8/18 (日)
- リハビリテーション学部 4/28 (日)・6/16 (日)
7/28 (日)・8/18 (日)・9/8 (日)

医学部 枚方キャンパス

医学部オープンキャンパスでは、全体説明会場の加多乃講堂で、医学部金子一成学部長による学部長挨拶や入試センター中川淳センター長による入試概要説明が行われました。また、同会場において在学生在が受験勉強や学生生活について自身の経験を語るトークイベントや、本学医学部教授による模擬講義も行われました。

その他、在学生在が学内施設や設備を案内するキャンパスツアーや、シミュレーション機器体験、個別相談、学食無料体験といったプログラムが実施され、両日合わせて近年では最も多い1,000名を超える参加がありました。



シミュレーション機器を体験する参加者

看護学部 枚方キャンパス

看護学部オープンキャンパスでは、加多乃講堂での学部ガイダンスや入試・進路ガイダンス、看護学部棟での保健師のお仕事紹介、助産師のお仕事紹介、学生リアルトークライブ、高機能シミュレータ実演や高齢者疑似体験などが行われました。学生リアルトークライブでは、本学を選んだ理由、大学生活や実習に関する在学生のリアルな声に、参加者が熱心に耳を傾けていました。

キャンパス・病院見学ツアーでは学生スタッフがツアーガイドを担当し、学内の様々な施設の特長を紹介しました。また、シミュレータ体験においても、学生スタッフがシミュレータごとの違いやシミュレーション方法を説明。参加者は採血の練習をしたり、聴診器をつけてシミュレータの心音を聞いたり、瞳孔の様子を確認したりするなど、様々な体験を行っていました。



シミュレータの説明をする学生スタッフ

リハビリテーション学部 牧野キャンパス

リハビリテーション学部オープンキャンパスでは、学部紹介や担当教員によるミニ講義に加え、在学生在が1日のスケジュールや勉強内容、臨床実習など入学後の学生生活について自身の経験談を交えながら参加者に伝える学生企画や学内施設を案内するキャンパスツアーが実施されました。その他にも、テーピングや筋力の機能体験、動作解析体験、義手・手の装具体験や革細工製作体験など、それぞれの学科で模擬体験のブースが開設され、多くの参加者でにぎわいました。



テーピング体験に参加する参加者

「施設設備整備拡充事業資金」の募集のご案内

本学の未来のため、学生の学びのために、皆様のご協力をお願い申し上げます。

令和6年度募集要項

募集要項		募金のお手続き	
募金の目的	関西医科大学施設設備整備拡充事業資金	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="background-color: #00a0e3; color: white; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 申込書提出 </div> <div style="background-color: #00a0e3; color: white; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> お振込み </div> <div style="background-color: #00a0e3; color: white; padding: 10px;"> 確定申告 </div> </div>	<p>募金室へ寄付申込書をご記入の上ご提出ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 申込書はホームページに掲載しております。 メールに添付、または必要事項を本文にご記入の上、送信いただいても結構です。
募集主体	学校法人関西医科大学		<p>募金専用口座へお振込みください。</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネットバンキングからお振込み 振込用紙を使用し窓口にてお振込み ATMからお振込み ※上限額がございます
募集対象	保護者、同窓会員、本学関連の個人及び法人、その他		<p>確定申告いただくと所得税が減税されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 募金室より寄付金受領書と減税証明をお送りします。 住民税減税対象はお住まいの自治体によって異なります。
募集期間	令和7年3月末日まで		

この募金の応募は任意です。

【お問い合わせ先】

関西医科大学法人事務局募金室

〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号

TEL: 072-804-2146 FAX: 072-804-2344

メール: bokin@hirakata.kmu.ac.jp

HP: <https://www.kmu.ac.jp/donation/index.html>

税制優遇措置のご案内

個人の場合 課税所得額からの控除（所得控除）、または所得税額からの控除（税額控除）、いずれかの選択となります。

【所得控除】

年間にご寄付いただく金額（所得の40%が限度）が2千円を超えた場合は、2千円を超えた分について、その年の課税所得額から控除されます。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{寄付金額} \\ \hline \text{(年間所得合計額の40\%が限度)} \\ \hline \end{array} - 2,000\text{円} = \text{所得控除額}$$

【税額控除】

年間にご寄付いただく金額（所得の40%が限度）が2千円を超えた場合は、2千円を超えた分について、40%相当額が所得税額から控除されます。但し、所得税額の25%が限度です。

$$\left[\begin{array}{|c|} \hline \text{寄付金額} \\ \hline \text{(年間所得合計額の40\%が限度)} \\ \hline \end{array} - 2,000\text{円} \right] \times 40\% = \text{税額控除額} \\ \text{(所得税額の25\%が限度)}$$

確定申告により所得税が還付されます

法人の場合

(1) 特定公益増進法人寄付金

寄付金額のうち、一般寄付金の損金算入限度額と特別損金算入限度額の合計金額までが損金に算入できます。

(2) 受配者指定寄付金

寄付金全額が当該事業年度の損金に算入できます。日本私立学校振興・共済事業団を通し、本学を受取先に指定してご寄付をしていただく制度です。

令和6年7月から令和6年9月までにご寄付いただきました方々のご芳名(五十音順)を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

ご芳名のwebサイトでの掲載は控えさせていただきます。



今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

大学	7月4日	国外臨床実習成果報告会	
	7月4日	臨床看護学教員辞令交付式	
	7月20日	看護学部ホームカミングデー	
	7月21日、8月3日	医学部オープンキャンパス	
	7月24日	看護学部OSCE	
	7月28日、8月4・18日	看護学部オープンキャンパス	
	7月28日、8月18日、9月8日	リハビリテーション学部オープンキャンパス	
	8月3日	常翔啓光学園高大連携事業	
	8月9日	グラスゴー大学留学生修了証授与式	
	8月25日	夏休みこども企画	
	8月30日	大学院医学研究科リトリート	
	9月6日	CRUI訪問団・イタリア万博政府代表大使来学、 ヴェネツィア大学との協定締結	
	9月10日	令和5年度「学生からの教育評価」	
	9月13日	住みやすい街プロジェクト第一弾フレイル予防サポート養成講座	
	9月14・15日	研究医養成コースコンソーシアム合宿	
	9月21日	リハビリテーション学部病院見学会	
	9月24日	大学院医学研究科学学位記授与式	
	9月28日	医学部6学年臨床実習後OSCE(Post-CC OSCE)	
	附属病院	7月3日	
7月19日		北河内がんゲノムセミナー	
7月26日		1日看護師体験	
8月14日		こども病棟夏祭り	
9月21日		市民公開講座	
総合医療センター	7月24・26・30日	ふれあい看護体験	
	8月1・2日	第18回滝井セミナー	
	8月6・20日	1日看護師体験	
卒後臨床研修センター	7月25日、8月5日	令和7年度臨床研修医採用試験	
	8月10日	令和7年度研修歯科医採用試験	
看護キャリア開発センター	7月19日	実地指導者研修	
	7月20日	大学院看護学研究科博士前期課程進学支援研修会	
	9月7日	第1回事例検討会	
	9月21日	第1回セミナー	
オール女性医師キャリアセンター	7月5日	第2回医師キャリア支援のための交流会	

医学部オープンキャンパス

看護学部オープンキャンパス

リハビリテーション学部オープンキャンパス

臨床看護学教員辞令交付式

フレイル予防サポート養成講座

大学院生涯健康科学研究科開設

リ

令和7年4月開設予定の本学大学院生涯健康科学研究科について、文部科学省に提出していた設置認可申請書が認可されました。

少子高齢化に伴いリハビリテーションの重要性がますます高まる中、多彩な附属医療機関、地域社会や介護・福祉関連施設との連携を持ち、医学部、看護学部、リハビリテーション学部を擁する医療系複合大学としての強みを生かし、率先して課題解決を図るリーダーを育成します。

【生涯健康科学研究科概要】

開設時期	令和7年4月	入学定員	8名
開設場所	関西医科大学牧野キャンパス 〒573-1136 大阪府枚方市宇山東町18番89号	取得学位	修士(生涯健康科学)
修業年限	2年		

詳細については<https://www.kmu.ac.jp/faculty/gradl/index.html>をご確認ください。

令和5年度「学生からの教育評価」

医 看 リ

本学では、教員の教育活動を奨励しその資質の向上を図ることを目的として、学生による教育評価アンケートを実施しています。医学部、看護学部、リハビリテーション学部で、令和5年度の講義について学生に教育評価アンケートを集計した結果、次の講義・教員が高い評価を得ました。

●医学部 教育奨励賞

教養・基礎統合コース	臓器別系統別コース	臨床実習科目
1位 生体の構造と機能P2b(2)(2学年)	1位 耳鼻咽喉・頭頸部外科(4学年)	1位 外科学(附属病院)(5学年)
2位 医学英語A1(1)(1学年)	2位 精神・行動(4学年)	2位 整形外科学(5学年)
3位 健康科学A1(1学年)	3位 腎尿路(3学年)	3位 内科学三(5学年)

●医学部 教員部門

1学年	2学年	3学年	4学年
1位 黒瀬 聖司(健康科学センター)	1位 小池 太郎(解剖学講座)	1位 大江 知里(病理学講座)	1位 梅垣 岳志(麻醉科学講座)
2位 川浦 孝之(数学教室)	2位 関 亮平(解剖学講座)	2位 池側 均(救急医学講座)	2位 八木 正夫 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座)
3位 大江 総一(解剖学講座)	3位 中川 学(医化学講座)	3位 吉村 晋一 (脳神経外科学講座)	3位 小原 久未子 (衛生・公衆衛生学講座)

●看護学部

講義部門	演習部門	実習部門
1位 診断治療論	1位 生活者援助論	1位 在宅生活援助論実習I

●リハビリテーション学部

基礎分野	専門基礎分野	専門分野
1位 フランス語	1位 生理学実習	1位 精神障害作業療法評価学・演習
2位 グローバルコミュニケーション	2位 老年医学	2位 精神障害作業療法演習
3位 認知科学 哲学	3位 精神医学	3位 理学療法概論

また、医学部においては教育評価アンケートの結果に基づき高い評価を得た教員もしくは科目を「関西医科大学教育奨励賞」として表彰しています。9月10日(火)14時40分から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において表彰者を対象に「令和5年度学生からの教育評価に基づく教員の表彰式」が行われました。この日の表彰式では、令和5年度表彰の対象となった講義の教員に木梨達雄学長から表彰状が手渡されました。



表彰式の様子

令和6年度研究医養成コースコンソーシアム合宿

医

9月14日(土)13時から、ホテルフクラシア大阪ベイ(大阪市住之江区)において「研究医養成コースコンソーシアム合宿」が開催され、本学および連携大学のうち4大学の学生・教職員合わせて58名が参加しました。

1泊2日の合宿形式で、1日目には学生によるポスター発表と教員を交えてのグループワークが行われました。夕食時には、ポスター発表で参加者から特に高い評価を獲得した学生3名に、木梨達雄学長から賞状が手渡され、本学からは、医学部3学年・中村かりんさんが最優秀賞を受賞しました。2日目は表彰された学生3名による口演発表とグループワーク発表、参加教員によ

る講演が行われ、それぞれの大学の研究や研究体制について、最後まで活発な意見交換が行われました。



開会挨拶の様子

大学院医学研究科リトリート

医

8月30日(金)14時からホテルフクラシア大阪ベイ(大阪市住之江区)で大学院医学研究科リトリートが開催され、医学研究科大学院生と教員あわせて79名が参加しました。台風の接近に伴いプログラムを短縮しての開催となりましたが、選択必修コース(がん研究コース、人体の構成と疾患研究コース、臨床・疫学研究コース)ごとに、博士課程2～4年次の大学院生が研究中間発表を行いました。

その後、大学院生と教員の投票に基づき各コースの優秀賞(1位・2位)が選出され、表彰が行われました。参加院生にとっては様々な研究内容に触れ、自身の研究へのフィードバックを受けられる貴重な機会となりました。

【研究中間発表優秀賞】

- がん研究コース

【1位】3年次	松井 雄基さん
【2位】2年次	Promsorn Panuwatさん
- 人体の構成と疾患研究コース

【1位】2年次	Le Thi Kieu Nhiさん
【2位】2年次	Pham Thi Tamさん
- 臨床・疫学研究コース

【1位】3年次	中本 喬大さん
【2位】4年次	村瀬 雄士さん



集合写真

看護学部ホームカミングデー

看

7月20日(土)11時から枚方キャンパス看護学部棟4階討議室において、令和6年度第1回ホームカミングデーが開催されました。当日は、令和5年度の卒業生13名と、教職員らが参加。久しぶりに来学した卒業生たちは、学生時代の懐かしい思い出や現在の仕事、将来の夢などを語り合い、旧友や恩師との再会を楽しみました。看護師や助産師として現場に立っている卒業生からは、仕事のやりがいや苦悩、患者さんとの関わりの中で嬉しかった出来事などについて様々な声が寄せられました。教員たちもそれぞれの看護師時代の経験

を紹介し、卒業生たちのさらなる活躍を願ってアドバイスをする場面がありました。



それぞれの経験を語り合う参加者

常翔啓光学園高等学校との高大連携事業

リ

看護学部、リハビリテーション学部は令和5年度から常翔啓光学園中学校・高等学校との高大連携事業を推進し、中学生・高校生のキャリア形成を応援しています。

8月3日(土)9時30分から、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟において体験授業が実施され、同高等学校の生徒9名が参加しました。生徒たちはミニ講義でリハビリテーションについて学んだ後に、理学療法学科ブースでは3次元動作解析と筋力・筋電図測定を、作業療法学科ブースでは手の装具作製と高齢者擬似体験を実施。講義や体験を通じて大学での専門的な学びを具体的にイメージできる良い機会となったようでした。



手の装具の作製体験

夏休み子ども企画「関西医科大学で遊びを体験」

リ

8月25日(日)(午前の部9時30分から、午後の部13時から)に牧野キャンパスリハビリテーション学部棟において地域の子ども向け企画「関西医科大学で遊びを体験」が開催されました。

このイベントは、地域の中で全ての子どもが健やかに成長していける社会を目指し、地域に貢献できる取り組みとして作業療法学科の教員らが企画したものです。第3回目となる今回は6家族から児童9人、ご家族10人が参加。教員らとボランティアの学生スタッフがサポートする中で、子どもたちは、トランポリンやボールプール、室内に設けられたブランコ、滑り台など様々な遊具に挑戦し、心身の発達に欠かせない遊びを思い切り体験しました。



トランポリンを楽しむ子どもをサポートする学生スタッフ

令和6年9月度大学院医学研究科学学位記授与式

医

9月24日(火)15時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、「令和6年9月度大学院医学研究科学学位記授与式」が挙行されました。学位記授与式には木梨達雄学長をはじめ大学院医学研究科金子一成研究科長・副学長、齋藤貴徳副学長、岡田英孝副学長、大学院医学研究科人見浩史教務部長、中邨智之教務副部長や指導教員、審査委員らが列席し、課程博士9名、論文博士5名に博士(医学)の学位記が授与されました。

その後の学長式辞では、学位取得者の努力を労い、医師の働き方改革により研究が置かれている状況に触れながら、今後の活躍を期待しての激励の言葉が贈られました。また、修了生謝辞として、授与者代表からこれまで

の大学院生活を振り返りながら、指導教員や関係教職員のサポートに対する感謝と医学博士号授与者としての決意が述べられました。



学位記を手に持つ修了生

附属病院 外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）認定

附属病院は、3月に一般社団法人日本医療教育財団による外国人患者受入れ医療機関認証制度の審査を受審し、下記の通り認定を受けました。

- 認定番号：AI0090
- 認定日：令和6年8月5日
- バージョン：ver.2.1
- 認定有効期限：令和6年8月5日～令和9年8月4日

外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)とは、一般財団法人日本医療教育財団が外国人患者の受入れ体制を中立・公平な見地から審査を行い、財団の定める認定基準に達しているかを評価するものです。本認証制度は、外国人患者の円滑な受入れを推進する国の事業の一環として厚生労働省が平成23年度に実施した「外国人患者受入れ医療機関認証制度整備のための支援事業」を基盤に策定されたものです。

**附属病院** 臨床腫瘍科開設

7月1日付で臨床腫瘍科が開設されました。同科ではがん薬物療法とがんゲノム医療を中心に、各診療科と連携して診療を行っています。また、附属病院はがんゲノム医療連携病院の指定を受けており、がん遺伝子パネル検査の適応の判断、適切なパネルの選択と申込、結果の解釈、患者さんへの結果説明を臨床腫瘍科が担当しています。

附属病院 沖縄美ら海水族館遠隔授業

7月3日(水) 13時30分から附属病院5階こども病棟カンファレンスルームにおいて、小児患者さんの支援の一環として附属病院がんセンターAYA世代支援チームの主催で「沖縄美ら海水族館遠隔授業」が開催されました。これは沖縄美ら海水族館が教育普及プログラムとして無料で実施しているもので、施設とオンラインで中継を繋ぎ、こども病棟入院中の患者さん6名が参加。テーマは複数ある中からの選択制となっており、今回は「ウミガメクイズ&かわいい赤ちゃんウミガメとご対面！」が選ばれました。可愛らしいウミガメの赤ちゃんの姿がスクリーンに映し出されると、こどもたちから歓声が上がり、飼育員によるウミガメの生態解説やクイズが行われ大いに盛り上がりました。



ウミガメの赤ちゃんに見入る参加者たち

附属病院 北河内がんゲノムセミナー

7月19日(金) 17時30分から附属病院13階講堂において、北河内がんゲノムセミナーが開催され、51名(会場22名、Web29名)が参加しました。呼吸器外科村川知弘教授が座長を務め、京都大学大学院医学研究科ゲノム医療学講座鳥嶋雅子特定助教が「ゲノム医療と遺伝カウンセリング」、続いてがんセンター金井雅史センター教授が「保険適用後5年が経過したがんゲノム医療の現状」と題してそれぞれ講演しました。



講演する金井センター教授

若手研究者特集

様々な研究活動とその成果が学内外から表彰され、躍動する本学の若手研究者たち。その活躍の一端をご紹介します。
※記事企画時点で40歳以下で、一定の研究成果を持つ研究者の先生方に取材する連載企画です。

免疫細胞における小胞輸送制御因子のメカニズムの解明

附属生命医学研究所 生体情報部門 住吉 麻実 助教

—現在の研究テーマとそのテーマを決めたきっかけを教えてください。

現在の研究テーマは「免疫細胞における小胞輸送制御因子の働きを明らかにすること」です。学生時代は、細胞内の物質輸送機構の一つである「小胞輸送」に着目した研究を行っており、従来は別々に働くと言われていた2つの小胞輸送制御因子が、実は協調して働いていることを発見しました。この細胞レベルの発見が、個体レベルの複雑な生命機能に与える影響を自分の目で確かめたいと思ったことがきっかけで免疫研究の世界に飛び込みました。小胞輸送は全身の細胞で行われている現象であるため、当然免疫細胞にとっても大切な機構です。一方で、免疫研究では複数の免疫細胞間でのコミュニケーションに焦点が当てられることが一般的であり、解析方法も小胞輸送研究で用いられるものとは全く異なります。そのため、免疫分野における小胞輸送研究はほとんど進んでいないのが現状です。私は、学生時代から培った小胞輸送研究の知識や技術を免疫分野に応用することにより、「免疫細胞における小胞輸送研究」という新しい研究フィールドを創生することで、自分だからできるオンリーワンの研究をしたいと考えています。

—その研究について教えてください。

現在、小胞輸送制御因子の中でもArfという因子に着目して研究を行っています。ヘルパーT細胞は、様々な免疫機能を持っていますが、その機能の特徴づけているのがサイトカインと呼ばれるコミュニケーション物質の放出です。免疫の研究では、このサイトカインの放出を止めるツールとしてArfの阻害剤が用いられるため、これまでArfはサイトカインの放出に関与すると考えられてきました。しかし私たちの研究から、Arfがなくても、ヘルパーT細胞のサイトカイン放出には影響がないことが明らかとなりました。一方で、炎症性腸疾患や多発性硬化症といった自己免疫疾患のマウスモデルにおいては、T細胞でArfを欠損すると、これらの自己免疫病態が著しく抑制されることを見出しました。Arfがどのようにして自己免疫疾患の病態に関わるのか、そのメカニズム解明に現在取り組んでいる段階ですが、将来的にはArf経路を標的とした新しい自己免疫疾患の治療法開発に繋がることを期待して研究を進めています。

—研究の目標としていることや将来の展望を教えてください。

免疫細胞は攻撃的になったり、逆に免疫を抑える方向に働いたり、状況によって大きく性質を変化させます。このような変化が適切なタイミングで起こることは、正常な免疫応答に重要であり、不適切なタイミングでの変化や、そもそも性質が変化しない場合は、自己免疫疾患や免疫不全の原因となります。私は、免疫細胞の性質が変化する時に、細胞内で輸送される物質の種類や輸送頻度・輸送先などが大きく変化することに注目しています。免疫細胞の性質が変化する際、どのような小胞輸送制御因子が働くかを解明することにより、将来的には小胞輸送を標的に、間接的に免疫細胞の性質をコントロールすることを目標にしています。



—研究への思いや後輩へのメッセージをお願いします。

私は医学部出身の医師ではないので、理学部出身の基礎研究者の立場から後輩にメッセージを送りたいと思います。研究には終わりが無いので、いつまでも自分が納得できるまでテーマを追求することが可能な点は魅力の一つです。一方で、基礎研究は長い目で見ないと社会的な意義が分からないことが多く、気が付けば一つの研究を深掘りしすぎてしまい、結果的に自分の知的好奇心を満たすことがゴールになってしまう恐れがあります。そうならないためにも、基礎研究をどのように応用研究へと展開していくのかを常に意識することが非常に重要だと私は考えています。私の場合、関西医科大学で今までとは異なる研究領域に足を踏み入れたことによって自分だからできる研究テーマを見つけることができましたし、医師との関わりが増えたことで、研究を将来的にどう社会に還元したいのかを今までよりも深く考えるようになりました。一方向からだけではなく、様々な角度から現象を捉えることができる柔軟性を持って、意義のある研究をしてほしいと思います。

【略歴】

平成26年 3月 奈良女子大学理学部生物科学科卒業
平成28年 3月 奈良女子大学大学院人間文化研究科生物科学専攻博士前期課程修了
平成28年 4月～ 関西医科大学附属生命医学研究所生体情報部門助教
令和 3年 3月 論文博士（理学）（奈良女子大学）取得

【受賞歴・競争的研究費採択歴】

- ①Arf経路を介したT細胞脂質代謝リプログラミングの分子基盤解明
日本学術振興会：科研費 基盤研究C
360万円、研究期間：令和5年-令和7年 代表者：住吉麻実
- ②CD8+T細胞におけるニコチン・ニコチン受容体の役割解明と疾患治療への応用可能性
公益財団法人 喫煙科学研究財団 若手研究
150万円、研究期間：令和6年-令和9年 代表者：住吉麻実
- ③Arf経路を介したT細胞生存維持機構の解明
日本学術振興会：科研費 若手研究
360万円、研究期間：令和3年-令和4年 代表者：住吉麻実
- ④小胞輸送制御因子Arfを介したpathogenic Th17細胞制御機構の解明
日本学術振興会：科研費 若手研究
330万円、研究機関：令和元年-令和2年 代表者：住吉麻実
- ⑤がん微小環境の接着による制御機構の解明と臨床応用
令和2年度KMU研究コンソーシアム助成 研究分担者：住吉麻実（研究代表者：植田祥啓）
- ⑥Arfファミリーは自己免疫疾患の新規治療ターゲットとなり得るか？
学校法人 関西医科大学 平成30年度学内研究助成D1
- ⑦新規樹立Arf11f1/1f1マウスを活用したT細胞におけるArfファミリーの生理機能解明
学校法人 関西医科大学 平成28年度学内研究助成D1

在宅療養移行を実現する悪性脳腫瘍患者の外泊看護支援プログラムの作成

看護学部 クリティカルケア看護学領域 小林 寛子 助教

—現在の研究テーマとそのテーマに決めたきっかけを教えてください。

現在、私は「在宅療養移行」と「悪性脳腫瘍患者の看護」の2つのキーワードに焦点を当て、研究を進めています。

「在宅療養移行」については、博士前期課程で行った研究を通して、高齢者が痛みや排尿障害などの症状を抱えながらも在宅での生活を望む姿を見て、在宅療養移行に向けた学びを深めたいと考えました。また「悪性脳腫瘍患者の看護」については、私は脳神経外科・SCU（脳卒中集中治療室）で勤務し、悪性脳腫瘍患者の看護に携わってきました。当時の私は、悪性脳腫瘍患者の方が在宅療養移行を希望した際、その未熟さから適切な時期に、適切な看護支援を行うことができず、患者さんの希望を叶えることができなかつた経験をしました。これらの経験と知見から、私は、悪性脳腫瘍患者の在宅療養移行に向けた看護支援の構築の必要性を実感し、現在の研究を行うに至っています。

—その研究について教えてください。

悪性脳腫瘍患者は、予後不良であり、急速に症状が進行していくことが少なくありません。また、運動機能障害や高次脳機能障害などの機能障害が出現することで、早期の段階で他者の力が必要となります。そのため、手術療法後に患者さんが在宅療養移行を希望した場合であっても、その介助量の多さから、在宅療養移行が進まないといった現状があります。また、悪性脳腫瘍患者が「自宅に帰りたい」と退院を望む場合には、患者さんの機能障害による症状マネジメントや、痙攣時の対応方法など、適切な時期に、患者・家族への適切な教育や支援が不可欠です。

在宅療養移行に向けた効果的な支援の1つとして、試験外泊が挙げられます。外泊は、患者さんの思いをかなえるのみならず、在宅療養移行に向けた家族や患者さんを受け入れる療養環境の準備を行うためにも重要な機会とされています。研究では、外泊支援が、悪性脳腫瘍患者の在宅療養移行に向けた効果的なステップとして、位置づけられることに着目し、その支援内容を明らかにするために、看護師の方を対象とした調査を進めています。

—研究の目標としていることや将来展望を教えてください。

わが国において、在宅療養移行に向けた悪性脳腫瘍患者の看護の研究は、患者さんや家族の体験を明らかにした研究はされていますが、その看護支援の指針は確立されていません。昨今、入院期間の短縮化が進んでおり、悪性脳腫瘍患者の方に限らず、在宅に戻ってもなお、何らかの治療や看護を必要とする方が増えてきています。今後は、在宅療養移行時に、治療や看護を必要とする患者さんへの支援を、多職種間で支えることが出来る体制を構築できるような研究を進めていきたいと考えています。

—研究への思いや後輩へのメッセージをお願いします。

医療の現場では、多くの職種が患者さんを支えています。その中でも看護師は、多くの時間を患者さんのベッドサイドで過ごし、患者さんに最も近い存在として位置しています。私は、今ベッド



サイドに立ち患者さんを直接支える場にはいません。しかし、研究を通して、看護実践を確立していくことに貢献し、患者さんを支えていきたいと考えています。

躓いたときに立ち戻る場所は、臨床で経験した様々な場面と、その時の思いです。関西医科大学は、様々な研究をされている教員と、隣接した附属病院に素晴らしい臨床家の方々がいる恵まれた環境にあります。臨床で抱えた疑問を、研究疑問として、先生方や臨床の方々に相談し、指導を受けながら、そのときの思いに立ち返り、研究疑問を着実に解決していきたいと考えています。研究の時間を作り、それに取り組み、結果を出していくことは、ありのままの自分に直面することでもあり、つらさも伴います。しかし、新しい発見は、とてもわくわくして心が湧きたちます。看護への幅広い興味を持ち、研究の楽しさを共に体験していきたいと考えています。

【略歴】

平成21年4月 国立大学法人 山形大学医学系研究科看護学専攻(老年看護学) 修士
平成23年4月～平成25年3月 国立大学法人 群馬大学大学院保健学研究科 成人看護学(急性期) 助教
平成27年5月～平成28年3月 大阪医科薬科大学 非常勤教員
平成30年4月～関西医科大学看護学部 助教

【競争的資金採択歴】

令和6年4月 - 令和11年3月
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)
「RRSを要請する看護師の急変認知力向上にむけた教育的介入の効果について」
(研究代表者) 宮川 彩花
令和6年4月 - 令和11年3月
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)
臓器提供に関わる看護師の倫理的苦悩の実態と倫理教育プログラムの開発
(研究代表者) 谷水 名美
令和2年4月 - 令和8年3月
日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究
在宅療養移行を実現する悪性脳腫瘍患者の外泊看護支援プログラムの作成
(研究代表者) 小林 寛子
平成31年4月 - 令和5年3月
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)
急性・重症患者看護専門看護師の倫理的実践の体系化・倫理的実践の質向上に向けて
(研究代表者) 林 優子
平成30年 - 令和2年
公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団在宅医療助成
在宅医療を目指す急性期治療後の医療依存度の高い患者の傾向と特徴
(研究代表者) 小林 寛子

附属病院

1日看護師体験

7月26日(金)9時から附属病院において、高校生を対象に「1日看護師体験」が開催されました。これは看護に対する理解を深めるとともに、看護の明るいイメージづくりを図り、将来の進路選択の参考としてもらうために行われている大阪府の事業で、この日は枚方市内2校の高校2年生31名が参加しました。

参加者は2名ずつに分かれ、配属先の各部署で、ベッドメイキングや患者搬送、カンファレンスなどを体験。体験終了後のまとめの会では、わかりやすい説明、集中して実施する点滴や処置と、患者さんを笑顔にさせる声かけなど看護を身近に感じたようで、「看護師を

目指す思いが強まった」「とても素敵な職業だと思った」などの感想が聞かれました。



まとめの会で感想を述べる高校生

附属病院

こども病棟夏祭り

8月14日(水)18時30分から附属病院5階こども病棟エントランスおよびプレイコートにおいて、「こども病棟夏祭り」が開催され、入院中の子どもたちやその保護者らが参加しました。

この夏祭りは、単調な入院生活にメリハリをつけることでストレス発散の場とすること、患児とその家族同士の交流を図ることなどを目的に開催されているものです。夏祭りの開始と同時に、集まった子どもたちや保護者が見入る中、プロのマジシャンによるマジックショーが行われました。その他にも、ヨーヨー釣りや輪投げ、スーパーボールすくいなどが開催され、浴

衣姿の医師や看護師らと触れ合いながら、子どもたちが笑顔で楽しむ様子が見られました。



スーパーボールすくいに興じる入院患児

附属病院

市民公開講座

9月21日(土)13時から、附属病院13階講堂、合同カンファレンスルームにおいて「もっと知ってほしい認知症のこと」をテーマに市民公開講座が開催され、215名が来場しました。

松田公志病院長の挨拶後、一部では脳神経内科薬師寺祐介教授が「認知症の最新治療」のテーマで認知症のメカニズムや新薬の治療方法などを講演。続く二部では各専門職の立場から認知症の予防や対応を取り上げ、植留美認知症看護認定看護師による「認知症の予防と共生」、木村明子医療ソーシャルワーカーによる「認知症を支える社会資源」、渡邊友季子管理栄養士による「認知症と食事」、實廣祐理理学療法士による「認知症の予防における運動の効果」の4題が講演されました。

事前の問い合わせも多く、当日はメイン会場に加えて中継会場も開放するなど多数の参加があり、講演テーマ

に対して関心の高さが感じられました。

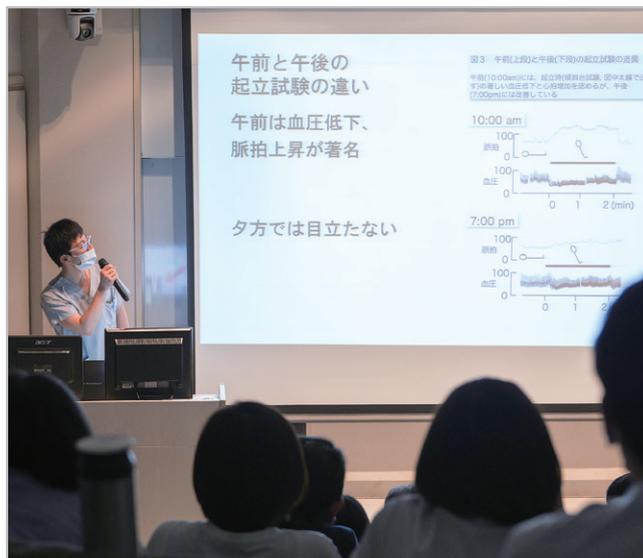


植看護師による「脳トレ」クイズの様子

総合医療センター

第18回滝井セミナー～子どもを理解するために～

8月1日(木)、2日(金)両日ともに10時から総合医療センター南館2階臨床講堂において、オンデマンド配信形式とあわせ滝井セミナーが開催されました。これは、起立性調節障害や発達障害などの小児心身症の子どもたちへの理解を深め、将来を見据えた支援につなげていくことを目的に、大阪府立刀根山支援学校と協力して教育関係者を対象に行っているもので、今回が18回目の開催となります。セミナーでは、大阪府内の高等学校の取り組みが紹介されたほか、小児科石崎優子診療教授による「発達障害への理解と対応」、同柳本嘉時診療講師と吉田龍平病院助教による「起立性調節障害への理解と対応」の2講演が行われ、オンデマンド配信を含めて約600名が参加しました。



講演を行う柳本講師

総合医療センター

ふれあい看護体験・1日看護師体験

7月24日(水)、26日(金)、30日(火)の3日間、「ふれあい看護体験」が開催されました。これは大阪府看護協会の企画により、総合医療センターで実施されたもので、看護職を目指す人が施設見学や看護体験をすることにより、看護職やその他の仕事を知るためのイベントです。参加者らは各日、オリエンテーションの後に病棟で看護体験を行い、体験終了後に若手看護師との交流の場を持ちました。3日間で22名の参加がありました。

また、8月6日(火)、20日(火)には「1日看護師体験」が開催されました。これは看護に対する理解を深めるとともに、看護の明るいイメージづくりを図り、将来の進路選択の参考としてもらうために行っている大阪府の事業で、2日間で14名の高校生が参加しました。

香里病院

病院機能評価認定

香里病院は、令和5年12月13日(水)、14日(木)に公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審し、下記の通り認定を受けました。

- 認定番号：認定第JC2533号 ● 認定日：令和6年6月7日
- バージョン：機能種別版評価項目3rdG：Ver.3.0
- 認定期間：令和6年6月7日～令和11年6月6日 ● 種別：一般病院1

病院機能評価とは、医療機関の機能を中立的な立場で評価を行う第三者機関として設立された公益財団法人日本医療機能評価機構が、中立的、科学的・専門的な見地から審査を行い、機構の定める認定基準に達しているかを評価するものです。

(評価対象領域)

- 第1領域 患者中心の医療の推進
- 第2領域 良質な医療の実践1
- 第3領域 良質な医療の実践2
- 第4領域 理念達成に向けた組織運営





令和7年度第1回・第2回臨床研修医採用試験、研修歯科医採用試験

7月25日(木)、8月5日(月)に「令和7年度臨床研修医採用試験」が、8月10日(土)に「令和7年度研修歯科医採用試験」が実施されました。

臨床研修医採用試験では、計50名の募集定員に対し本学出身者119名、他大学出身者96名の計215名から応募があり、過去最多の211名が受験しました。また、研修歯科医採用試験では、2名の募集定員に対し6名の応募があり、6名が受験しました。



採用試験の様子



医師キャリア支援のための交流会

7月5日(金)17時から、枚方キャンパス医学部棟3階学生食堂において、第2回医師キャリア支援のための交流会が開催されました。オール女性医師キャリアセンター主催の、医師のキャリアパスやワークライフバランスについて考えることを目的としたイベントで、学生や医師、大学関係者30名が参加しました。

今回は小児科学講座赤川翔平講師のもと、「カップルドクターのおしごと事情」をテーマに、ともに医師として働く2組の夫婦が登壇。医師としてのキャリアプランの考え方や、多忙な日々を乗り切るための家事や育児の工夫、夫婦ともに医師として働くことのメリットなどについて、語りました。

その後の質疑応答では参加した学生や研修医から、様々な質問が寄せられました。



参加者からの質問に答える登壇者



マタニティウェアレンタルサービス開始

オール女性医師キャリアセンターでは、産前休暇を取得するまでの期間、快適に業務に携わることができるよう、妊娠中の女性医師に無料でマタニティウェアをレンタルするサービスを7月から開始しました。

申し込み、サービス実施要領についてはKMUイントラネット/学内各種申請書式一覧からご確認ください(学内からのみのアクセスです)。





学会主催報告

令和6年7月～9月、本学が主催および事務局を務めた主な学会を紹介します。

第42回日本受精着床学会学術講演会

■会期 令和6年8月22日(木)～23日(金) ■場所 大阪国際会議場
■テーマ ARTの発展と社会の調和

体外受精を含むARTが保険化され、社会と足並みをそろえた生殖医療の提供が求められています。国内外から著名な演者をお招きし、ARTの保険化、先進医療、着床前検査、産科合併症、生殖手術、妊孕性温存などのセッションで議論を交わしました。さらに、オリンピックイヤーに相応しく女性アスリート支援も企画し大変好評でした。多数の現地参加があり盛会のうちに終了しました。ご支援いただいた皆様に御礼申し上げます。
【会長：医学部産科学・婦人科学講座 岡田 英孝 教授】



日本小児看護学会第34回学術集会

■会期 令和6年7月6日(土)～7日(日) ■場所 大阪国際会議場
■テーマ 多様化・複雑化する社会の中で生きる“こどもの力”を育む

日本小児看護学会会員は約2,300名です。第34回学術集会が初めての大府での開催となりました。学術集会のテーマを、「多様化・複雑化する社会の中で生きる“こどもの力”を育む」とし、こどもを取り巻く社会が、今後益々、多様化・複雑化するわが国で、こどもが生きるため、生きていくために、こども自身もつ力を育むことの重要性を考え議論する機会となりました。多くの臨床実践家と研究者の参加の基に活発な意見交換が行われました。
【学術集会長：看護学部 加藤 令子 学部長】



第26回日本薬物脳波学会

■会期 令和6年7月19日(金)～20日(土) ■場所 kokoka京都市国際交流会館
■テーマ 脳波学の新たなエポックへ

7月19日と20日の2日間、kokoka京都市国際交流会館にて第26回日本薬物脳波学会を開催いたしました。この学会は、元来神経・精神領域に作用する薬物が中枢神経系にもたらす効果や影響を、脳波を用いて検討することが活動の中心でした。しかし、近年は薬物に限らず種々の脳刺激法に関する研究、さらには脳波以外の手法を用いた研究もテーマとされています。比較的小規模な学会ですが、活発なディスカッションと交流が交わされました。
【大会長：リハビリテーション学部作業療法学科 吉村 匡史 教授
事務局長：医学部精神神経科学講座 池田 俊一郎 講師】



学会賞等受賞情報

令和6年4月～9月の学会賞受賞者等を紹介します。

NPPR Award 2024

医学部精神神経科学講座 嶽北 佳輝 診療教授
■受賞理由 neuropsychopharmacology reports誌の査読に多大な貢献を行ったため
■授与団体 日本神経精神薬理学会



OIIA in Sapporo 一般講演 座長賞

医学部眼科学講座 綾 はるか 助教
■テーマ 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に関連した強膜炎における抗体療法の影響
■授与団体 第57回日本眼炎症学会



Best reviewer award

医学部胆膵外科学講座 橋本 大輔 准教授
■受賞理由 2023年度最も多くの査読を行った、査読員としての優れた貢献
■授与団体 日本肝胆膵外科学会



2023年度 奨励論文賞

看護学部地域看護学領域 大川 聡子 教授
■テーマ 独居高齢者の低栄養の高リスクと身体的・心理社会的健康との関連：会食会参加者への調査をとおして
■授与団体 日本地域看護学会



2024年度 Academic Award

教育センター 林 幹雄 准教授
■受賞理由 医学教育における研究活動を通じて学術的に顕著な貢献を行ったため
■授与団体 American College of Physicians, Japan Chapter



Excellent poster award

看護学部精神看護学領域 的場 圭 講師
■テーマ Factors of abuse as perceived by nursing managers in psychiatric hospitals – A qualitative inductive analysis
■授与団体 The fifth research conference of the International Society of Caring & Peace



最優秀奨励賞

医学部小児科学講座 赤川 翔平 講師
■テーマ 夜尿症の男児の尿中細菌叢(urobiome)の特徴
■授与団体 第35回日本夜尿症・尿失禁学会学術集会



2024年度看護学研究奨励賞

看護学部こども看護学領域 古藤 雄大 講師
■テーマ Supporters' experiences of sensory characteristics of children with profound intellectual and multiple disabilities in after-school daycare centres: A qualitative study
■授与団体 日本私立看護系大学協会



奨励賞

医学部小児科学講座 加藤 正吾 助教
■テーマ トロント式DVSS(dysfunctional voiding symptom score)による潜在性脊髄係留症候群の診断精度
■授与団体 第35回日本夜尿症・尿失禁学会学術集会



優秀ポスターセッション

医学部リハビリテーション医学講座 桑原 嵩幸 大学院生
■テーマ 片麻痺歩行における床反力前方後方成分の特徴の違いが歩行機能に与える影響
■授与団体 第61回リハビリテーション医学会学術集会



最優秀論文賞

医学部整形外科科学講座 石原 昌幸 助教
■テーマ New Effective Intraoperative Techniques for the Prevention of Coronal Imbalance after Circumferential Minimally Invasive Correction Surgery for Adult Spinal Deformity
■授与団体 第14回低侵襲脊椎治療学会



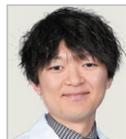
JACR2024 AsiaPRevet Award of Excellence

附属病院健康科学センター 浅田 翔太 大学院生
■テーマ Novel evaluation of exercise capacity using peak oxygen consumption and Oxygen Uptake Efficiency Slope in Cardiovascular Disease Patients
■授与団体 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会



OIIA in Sapporo 一般公演 座長賞

医学部眼科学講座 大庭 慎平 助教
■テーマ 濾過胞付近の周辺部角膜感染症の治療方針におけるAS-OCTの有効性
■授与団体 第60回日本眼感染症学会





教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。

(主に令和6年7月1日～9月30日 ※判明分のみ)

■ テレビ等

医学部内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ 「旬感LIVE とれたてっ！」 (7月16日)	宮下診療教授がスタジオ出演し、現在流行している新型コロナウイルスの新たな変異株である「KP.3」について解説しました。
附属病院看護部他 島村 里香 部長他	NHK 「おはよう日本」 (8月19日)	特定看護師の養成をテーマとした報道で、養成に力を入れ、成果をあげている医療機関として本学附属病院が取り上げられました。
医学部内科学第一講座 伊藤 量基 教授	MBSラジオ 「ポチっつとMini枠」 (9月9日)	伊藤教授が「見逃さないで！“病気のシグナル”！」のコーナーに出演し、青アザがシグナルとなる特発性血小板減少性紫斑病(ITP)について、疾患の特徴や原因の他、ITPが疑われる血小板の数値や診断の方法を解説しました。
医学部内科学第一講座 伊藤 量基 教授	MBSラジオ 「ポチっつとMini枠」 (9月10日)	伊藤教授が特発性血小板減少性紫斑病(ITP)について急性型・慢性型の特徴を解説し、青アザや出血が長引く際の受診を呼びかけた上で、治療が進歩しているため悲観することなく医師に相談してほしいとのメッセージを送りました。
医学部内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	TBSラジオ 「生島ヒロシのおはよう一直線」 (9月10日)	宮下診療教授が「生島ヒロシの今さら聞けない？今こそ聞きたい！これからの新型コロナ」のコーナーに出演し、現在の変異株の特徴や重症化リスク、感染対策について解説しました。
医学部内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	TBSラジオ 「生島ヒロシのおはよう一直線」 (9月17日)	宮下診療教授が「生島ヒロシの今さら聞けない？今こそ聞きたい！これからの新型コロナ」のコーナーに出演し、感染予防のためにできる5つの取り組みを紹介するとともにワクチン接種の効果や必要性を解説しました。

■ WEBメディア等

医学部IPS・ 幹細胞再生医学講座 服部 文幸 研究教授	共同通信・東京新聞・神戸新聞 (7月5日)	服部研究教授らのグループが人工多能性幹細胞(iPS細胞)をもとに爪を形成する爪幹細胞や指の形成に必要な遺伝子を含む細胞の塊の作製に成功した旨が、掲載されました。
附属病院臨床検査医学センター 神田 晃 教授	日経バイオテック (7月22日)	神田教授らの研究チームが、附属生命医学研究所ゲノム編集部門徳弘圭造学長特命准教授と分子遺伝学部門上岡裕治講師と共に、世界で初めてmEAR2欠損マウスの樹立に成功した旨が、掲載されました。
光免疫医学研究所 小林 久隆 所長・ 花岡 宏史 研究所教授・ 鈴木 基史 講師	日経バイオテック (8月13日)	小林所長、花岡研究所教授、鈴木講師らの研究チームが、光免疫療法における新たな光照射方法として側方照射型光ファイバーの有用性を実証したことが掲載されました。
看護学部 三木 明子 教授	共同通信 (9月24日)	バイシエントハラスメントを取り上げた記事で、ハラスメント被害をエスカレートさせない方策を求める三木教授のコメントが掲載されました。
附属生命医学研究所分子遺伝学部門 近藤 直幸 講師	日経バイオテック (9月26日)	近藤講師らの研究チームが、低親和性インテグリンが誘導する新規のインテグリン制御経路を世界で初めて発見したことが掲載されました。

■ 新聞・雑誌等

光免疫医学研究所 小林 久隆 所長	Wedge8月号 (7月20日)	「[無謀だ]と言われても諦めない！世界初のがん治療法」のタイトルで、光免疫療法の開発に至るまでの経緯や自身の思いを語った小林所長のインタビュー記事が掲載されました。
総合医療センター下部消化管外科 福長 洋介 理事長特命教授	産経新聞 朝刊 (7月30日)	「がん電話相談」の記事で、大腸がんの一種「S状結腸がん」切除の1年後に新たながんが見つかり、再手術を提案されている患者さんへの、福長理事長特命教授による助言が掲載されました。
医学部精神神経科学講座 嶽北 佳輝 診療教授	国際医薬品情報2024年8月9日号 通巻第1255号 (8月9日)	統合失調症治療のゴールについての変遷と、その治療薬である抗精神病薬の新世代の薬について、国内外の新薬開発動向に関する識者として、嶽北診療教授が対談形式で回答した記事が掲載されました。
医学部内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	産経新聞 朝刊 (8月18日)	新型コロナウイルス感染第11波で、その役割が見直されている飲み薬について、重症化や後遺症を予防する効果や、治療効果に関する正確な情報提供の重要性を述べた宮下診療教授のコメントが掲載されました。
医学部小児科学講座 石崎 優子 診療教授	北海道新聞 (8月25日)	起立性調節障害についての記事で、症状や原因、治療方法、疾患との付き合い方などに関する石崎診療教授の解説が掲載されました。
総合医療センター 中森 靖 副病院長	読売新聞 夕刊 (8月27日)	免疫不全によるコロナ持続感染と対応に関する問題点を扱った記事で、免疫不全コロナ患者さんを多数治療している施設として総合医療センター中森副病院長のコメントが掲載されました。
看護学部在宅看護学領域 李 錦純 教授	朝日新聞 朝刊 (8月31日)	日本で過ごす外国人高齢者が抱える問題に焦点をあてた記事で、在日外国人の高齢者支援の専門家として李教授のコメントが掲載されました。
光免疫医学研究所 小林 久隆 所長	ヘルシスト287号 (9月10日)	がん細胞と免疫抑制細胞を選択的に壊す光免疫療法の仕事みや、免疫活性化にも有効であるという特徴等について、小林所長による解説が掲載されました。
光免疫医学研究所 小林 久隆 所長	電子デバイス産業新聞9月26日号 (9月26日)	光免疫療法の特徴や仕組み、本学附属光免疫医学研究所が発表した側方照射型光ファイバーを始めとする新たなデバイスが開発されていることなどが紹介されました。
附属病院歯科・口腔外科 外山 裕貴 歯科衛生士	産経新聞 朝刊 (9月30日)	活躍する専門学校の卒業生を紹介する「プロフェッショナル」のコーナーで外山さんが取り上げられ、口腔ケアの重要性や業務のやりがいなどについてのインタビューが掲載されました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

編集後記

日本全国紅葉の名所は数多聞かれますが、本学がある京阪沿線にも素晴らしい名所があるようです。

ようやく過ごしやすくなってきたこの季節、スポーツの秋とまではいかなくとも、のんびりと紅葉狩りに出かけてみるのも一つの楽しみ方かもしれません。(M)

関西医科大学広報 Vol.67

発行 学校法人 関西医科大学
編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)
FAX 072-804-2638

<https://www.kmu.ac.jp/>
E-mail:kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

令和6年10月31日(木)発行